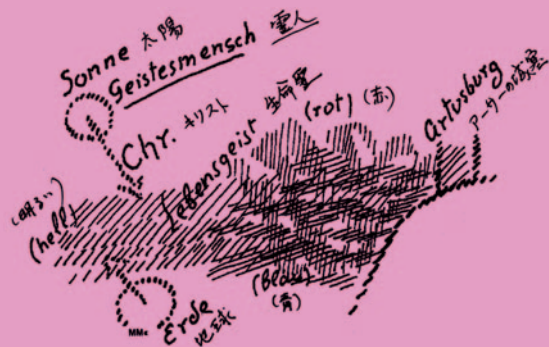


Rudolf Steiner:

“Esoterische Betrachtungen karmischer Zusammenhänge”, 6 Band VI, GA 240

Das Karma im einzelnen Menschen und in der Menschheitsentwicklung

いたるところで自然の本性との織りなしの中で戯れかけ活動し織りなしている自然の神々・・・全てが静かに流れ、激しく流れ、回転し、指し示す、読み解くことができる一つの真実・・・全てがキリストの生命霊によって演じられていた・・・



新刊書 2023年10月23日発行

A5版フランス装 本文128頁

ISBN978-4-903865-56-0

定価2750円 (本体価格2500円+税)

訳者 丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲーテに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熱中。人智学をドイツ、イギリスなどで学ぶ。現在、ゲーテ・シュタイナー的科学、バイオグラフィー・ワーク、占星学、カバラを研究。バイオグラフィーワーカーズ・ジュピター会員。理学博士、津田塾大学名誉教授。人智学関連著書に『やさしい占星術』、『星々と木々』、『シュタイナーの老年学』、『シュタイナーの老年学』、『百合と薔薇』、『沈黙のコスモロジー』他。訳書に『境域に立つ I-II』、『植物への新しいまなざし』、『エーテルと生命力』、『魂の救済』、『アントロポゾフィーの礎』、『人間と大地における惑星の作用と生命プロセス』、『カルマ認識と霊的・宗教的人生への衝動』、『ミカエルの太陽諸力によるキリスト教の深化』

ルドルフ・シュタイナー講演集

[カルマ的関連の秘教的考察]



ルドルフ・シュタイナー

現代における個々人と人類の 霊的成長とカルマ

ロンドンにおける3回の講演 (1924.8.24-27)

丹羽敏雄 訳・解説

キリストの、自分自身との出会い、人間の兄弟としてのキリストと、未だ像の中にのみ存在していた太陽のヒーローとしてのキリストの出会い、この出会い、キリストの彼自身の像とのこの合流は、9世紀に起きました。

地上生の中に霊性を運び入れようとする、そのような誠実なアントロポゾーフの魂たちが見い出されれば、それは一つの運動を上に向けて進めることになるでしょう。そのような魂たちを見い出せなければ、頹廃はさらに転がり続けることになるでしょう。・・・

人類は・・・文明である全てが奈落の底に転がり落ちるのを見るか、あるいは霊性を通して、キリスト衝動の前に立つミカエル衝動に含まれたものの意味に於いて、上へと上昇し続けていくかという不測の事態の前に立っているのです。

(本文より)

●目次より

訳者による序文

I ロンドンにおける3回の講演 (1924年8月24日~27日)

- 第1講演 (カルマ的意識の消失/目覚めと入眠時のアストラル的直感の推移/失われた認識に戻る/等)
- 第2講演 (カルマ的研究の困難/火星の守護神と水星の守護神/人間の意志生活の宇宙的考察/等)
- 第3講演 (ティンタンジェルとアイルランドの秘儀/アーサーの流れ/聖杯の流れ/ミカエルの流れ/等)

付録: ロンドン講演の前に行われた、英国アントロポゾフィー協会への挨拶と、ゲーテアナムでのクリスマス会議の報告 1924年8月24日

II 訳者による解説

- 1 太陽的キリスト存在と自然霊 (四大の霊)
- 2 アリストテレス及びアレキサンダーとハールーン・アッラシード及び彼の助言者との間の対立の本質と二つの流れ